

RD最終処分場問題周辺自治会代表者会議概要

日 時：平成22年3月29日（月） 19:30～21:40

場 所：栗東市中央公民館 2階大ホール

出席者：（滋賀県）田口副知事以下12名

（栗東市）國松市長以下7名

（県会議員）2名

（市会議員）11名

（地 元）小野：自治会長以下2名

北尾団地

赤坂

栗東ニューハイツ

日吉ヶ丘

上向

中浮気団地

各自治会長以下3名

（傍聴者）16名

（報道機関）6社10名

（全出席者）78名

1. 周辺自治会代表者会議での各自治会長からの状況報告概要

（小野）

- ・緊急対策だけでなく、有害物除去ということが大事。早く手をつけてほしい。
- ・有害物に関しては、実際に調査して見つけてもらいたい。
- ・緊急対策、恒久対策の二本立てでしっかり前に進んでもらいたいのが住民の総意である。

（北尾団地）

- ・一刻も早く解決に向け進めてもらいたい。
- ・県有地化が進むのであれば、協力していくというのが総意である。

（赤坂）

- ・早く何とか、対策工を確定して取り組んでいかねばならないが、基本は有害物除去が第一。
- ・現時点では、同意できる部分もあるが、同意できない部分もある。
- ・1の基本方針については、以前より前向きと読み取れる。何とか同意できそう。
- ・2について、これで本当に有害物が除去できるのか疑念がある。
- ・有害物調査委員会の設定について、住民の声を聞く機会を設けてほしい。

(栗東ニューハイツ)

- ・基本方針、有害物をできる限り除去するという点に関しては同意できるが、2番以降の有害物除去、調査の方法については他の方法もあるのではないかと。それについては宿題として残しながら、ある程度のところで合意はできると思っている。

(日吉ヶ丘)

- ・質問および確認事項に対して書面だけの回答で、県との話し合いが十分できていないので、今回返答することはできない。
- ・11月24日に県に出した基本要件の内容を十分に取り入れた対応をしていただきたい。

(上向)

- ・3月19日に役員で覚書を作成した。

(覚書の内容)

確認事項に対する県の回答からは県の姿勢に変化はみられず、住民からの切実な態度にも真摯な返答は無い。国からの助言を逆手に取りむしろ後退している。同意が無ければ予算執行しないとなっているが、権力を笠に着た強制的なやり方で、住民に責任転嫁した悪辣きわまりない手段である。同意することは我々が無責任の責めを負わねばならない。現時点での同意は見送らざるを得ない。

- ・予算確保を行った上で解決に向けての行政責任を遂行されるなら、協議を続行する協力は惜しまない。
- ・緊急対策工事が完了する5月末までは、返答は保留とする。

(中浮気団地)

- ・県が真摯に受け止めているのは環境省の話だけ。
- ・役員会や総会でも話し合ったが、これでは同意することはできない。
- ・連絡会を通していい話し合いができれば、初めて同意できるものと思っている。

2. その他の意見

- ・同意を得たければ、特別管理産業廃棄物の条件を外すこと。
- ・同意のためには、早く話し合いの場を持つこと。
- ・廃棄物を除去しないで同意することは難しい。
- ・有害物は特別管理産業廃棄物だけなのはなぜか。
- ・一番心配なのは飲み水の問題である。何かあったときの対処の方法は。
- ・県案に賛成したというよりも、進めてほしいという思いから賛成した。
- ・県も国もできることはできる、できないことはできないで良い。少しでも良くしようという思いがこの中では聞こえてこない。県も明確に進めてほしい。